

の髪の毛は黄色くないし、目の色も青くないけど、「この人たちと一緒に歌いたい」と思って、何度も借りてきて繰り返し見たのを覚えています。そして、僕の歌を「いい声だ」と両親がすごく褒めてくれたことも「大好き」になったきっかけの一つだと思っています。

でも、子どもが大好きになったきっかけは、僕にもよくわからないんですよ。気が付いたら「子どもが大好き」という思いがありました。小学生の時に担当制で高学年が低学年のお世話をするということがあり、もしかすると、その関わりの中で芽生えた感情なのかもしれません。

『おかあさんといっしょ』の番組を卒業して今年で5年目を迎えます。卒業以降、子どもに関わる仕事以外にもいろいろ経験させていたんだけど、多くの人と関わるのができなくなった。この貴重な経験の中で、いろんな発見をしたり、新しいものに出会うことが好きなかもしれないと感じました。同時に「子どもと家族に関わるのが一番好き」という僕の原点を再確認しました。

単純に子どもと歌が大好きで、それによって多くの子どもたちとその家族に関わる場所がたまたまテレビであっただけで、僕にとって歌のお兄さんは「ゴールではなく、「子どもと

家族の関わりをテーマに、これから仕事を続けていきたいです。

性別に関係なく

「大好き」をがんばれる環境を

「子どもと家族」に関わる仕事をしていると、女性的なイメージが強いのか、「男性だからやりにくかった」とは？」と聞かれることがあります。が、実際にやりにくいと感じたことはありません。

小学校3年生の時に入った合唱団、ピアノやエレクトーンを習っていた時も周りは女の子が多かったですし、音大生時代も親戚も女性が多かったのも違和感もなく、特に「男だから」を理由に嫌な思いをしたことはありませんでした。

ただ、芸能界に入った友人から仕事で性別を理由として嫌な思いをしたことがあると聞きました。実際に「女(男)なの」とか「前」に出るなと言われて、たくさんの苦労があったようです。また、男性保育士さんからの手紙で男性がゆえの仕事の悩みや苦労も知りました。僕は、あまり苦労しませんでした。性別に縛られることなく、やりたい仕事、好きな仕事をがんばれる環境が整うといえます。

人との関わりが難しい時代に

新型コロナウイルス感染症以下「コロナ」で大変な時でも、子どもは、日々成長していきます。僕は、子どもと一緒に過ごす時間は、長さではなく、どれだけ濃厚で素敵であるかが大切だと思っています。親子で素敵な時間を過ごす機会を皆さんに届けることが自分の使命のように感じています。そんな思いで開催していたファミリーミュージカルコンサートやその他の子どもに関わる仕事で「コロナの影響で全て中止になってしまいました。これには「がっかり」と「悔しさ」があります。

「コロナ禍で大変な状況を経験してみても、人と物質的な距離をとるあまり心の距離も離れ、人との触れ合いがなくなることはとても悲しいと感じました。様々な制限がある中だからこそ、人との関わりを素敵さを伝えられたらと思います。

歌うことで伝え続けたい

現役の歌のお兄さん時代に、お父さんからの応援の手紙が届いたときには、びくびくしたのと同時にとても嬉しかったです。お母さんからの手紙に混ぜて少しずつ増えていくお父さんからの手紙は、育児に関わって一緒に番組を見たり、歌を歌ったりしている姿が想像できず、すごく嬉しかったです。また、コンサート会場では、疲れて寝ているお父さんや「スプレをしているお父さんの姿を見て、「がんばってるな」と微笑ましかったです。少しでも皆さんの生活の中に入れてもらえているなと実感できる瞬間でした。

今の社会の状況として、男性が育児に積極的に関わることや育児休暇の取得がなかなか難しいことは承知していますが、子どもに関わる仕事をしている僕のような立場の人間が、テレビやコンサートを通じて「親子」や「家族」「人との関わり」の素晴らしさを親御さんにも子どもたちにも伝えられたらいいと思いますし、アプローチし続けることで、良い方向に向かうと信じています。

そして、家族の素敵な時間づくりのお手伝いと人に関わるこの素晴らしさを伝えるため、これからもテレビやコンサートで皆さんの「家族」とお会いしたいと思います。

